第285回柏崎地域早期景気観測調査　報告書

ー　令和5年8月期　ー

【インデックス】

1　全産業(P.2)
2　建設業(P.3)
3　製造業(P.4)
4　卸売業(P.5)
5　小売業(P.6)
6　サービス業(P.7)

〔調査方法〕

会員企業1社に対して、毎月下旬に【業況】【売上】【採算】【資金繰り】【仕入単価】【従業員】【資金借入難易感】の7項目について「前年同月比」（※従業員ＤＩについては今期水準）および「向こう3ヵ月の先行き見通し」の調査を依頼、翌月上旬までに寄せられた回答を集計し、その結果をＤＩ値で表します。

ＤＩ値は、実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味します。

〔DI値とは〕

ＤＩ値（景況判断指数）とは、「増加・好転」などの回答割合から「減少・悪化」などの回答割合を引いたもので、景況感の方向、強弱を示します。

【業況】…「好転」－「悪化」　　【売上】…「増加」－「減少」
【採算】…「好転」－「悪化」　　【資金繰り】…「好転」－「悪化」
【仕入単価】…「下落」－「上昇」　　【従業員】…「不足」－「過剰」
【資金借入難易感】…「容易」－「困難」

〔調査対象業種〕

建設業　総合工事業、設備工事業、職別工事業
製造業　鉄鋼・金属製品・機械器具製造業、食料品・印刷・窯業・土石製品製造業
卸売業　建材・鉱物・機械器具卸売業、飲食料品・衣服等卸売業
小売業　飲食料品小売業、衣料・身の回り品・その他小売業
サービス業　宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業

〔調査対象数・回答状況〕

業　種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全産業
調査対象数	39	45	27	26	35	172
回答数	24	29	13	11	24	101
回答率(%)	61.5%	64.4%	48.1%	42.3%	68.6%	58.7%

＜移動平均分析＞

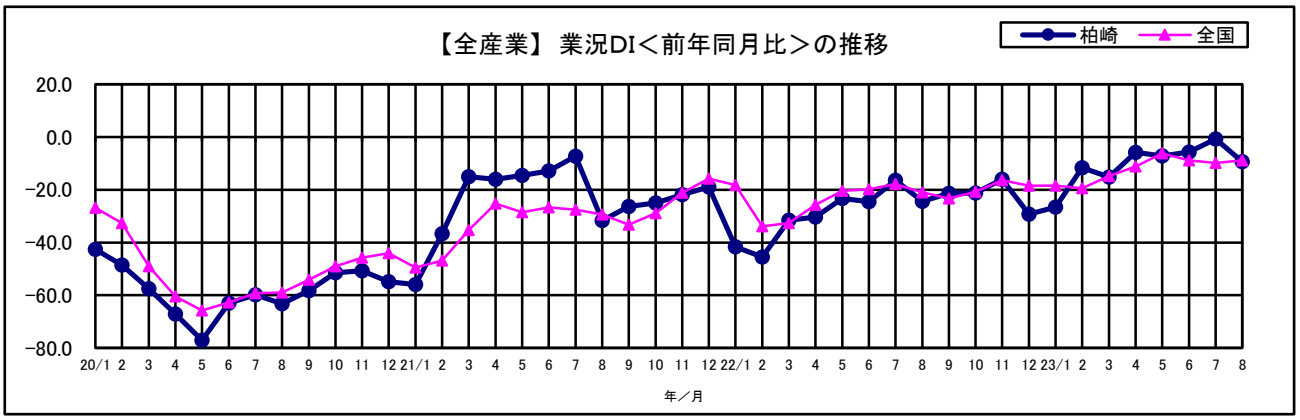
時系列データで見た場合、データの変化が激しく、基本的な変化の傾向がつかみにくいことがありますが、移動平均という方法を用いることにより、データ全体の変化の傾向を解析することがでいます。

ここでは、業況・売上・採算の三項目について、当該月を含めて過去6ヶ月分の平均値を連続的に求め、グラフ化しています。

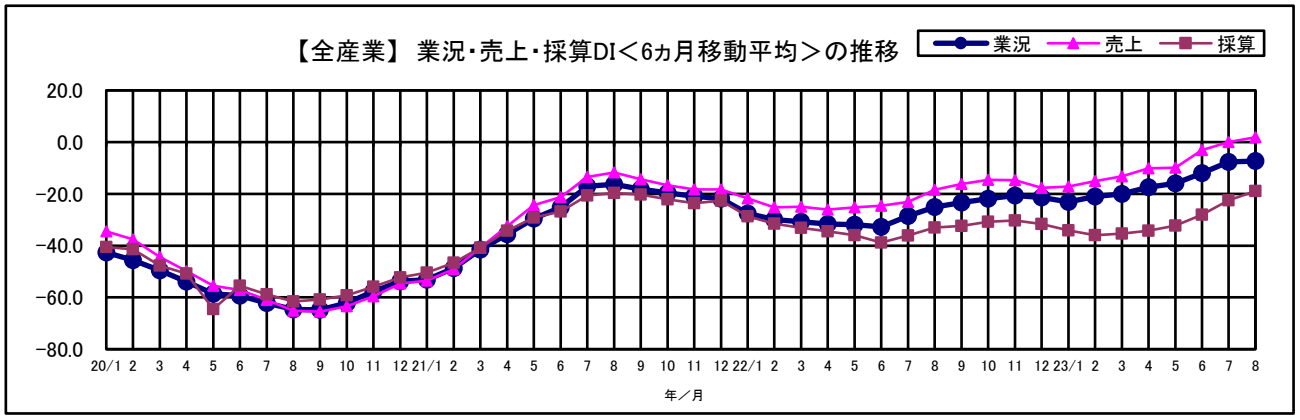
柏崎商工会議所

◆概況（全産業合計）

項　目		23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	23年8月	先行き見通し 9月～11月
業　況	柏　崎	▲ 15.2	▲ 5.8	▲ 7.2	▲ 5.7	▲ 0.7	▲ 9.3	▲ 14.6
	全　国	▲ 14.8	▲ 11.1	▲ 6.2	▲ 8.9	▲ 9.8	▲ 8.9	▲ 14.0
売　上	柏　崎	▲ 0.5	3.8	▲ 10.1	9.7	5.3	3.0	▲ 8.0
	全　国	1.9	6.3	5.7	4.0	4.0	7.3	▲ 1.4
採　算	柏　崎	▲ 26.6	▲ 14.6	▲ 19.9	▲ 19.6	▲ 12.1	▲ 20.7	▲ 21.6
	全　国	▲ 20.1	▲ 16.0	▲ 12.3	▲ 14.1	▲ 14.2	▲ 12.7	▲ 15.9
資金繰り	柏　崎	▲ 9.7	▲ 6.4	▲ 7.1	▲ 6.0	▲ 2.1	▲ 10.5	▲ 11.4
	全　国	▲ 15.1	▲ 12.9	▲ 10.6	▲ 12.3	▲ 11.8	▲ 11.6	▲ 13.9
仕入単価	柏　崎	▲ 70.4	▲ 66.5	▲ 67.5	▲ 63.6	▲ 64.2	▲ 70.4	▲ 58.2
	全　国	▲ 75.1	▲ 74.4	▲ 70.4	▲ 69.4	▲ 67.1	▲ 69.5	▲ 62.2
従業員	柏　崎	▲ 15.4	20.9	▲ 21.7	18.1	23.7	25.0	22.1
	全　国							22.8
資金借入難易感	柏　崎	▲ 1.7	2.1	0.3	0.6	▲ 0.1	▲ 3.7	▲ 3.7



＜移動平均分析（全産業）＞



【8月期全国全産業の動向】

●全産業合計の業況DIは、▲8.9

・小売業は、インバウンド需要の回復等で売上が好調な百貨店が牽引し、改善した。サービス業は、夏休み需要で飲食・宿泊・観光業を中心に改善も、物価高や天候不順の影響で力強さを欠いた。建設業は、資材価格高騰によるコスト増が重荷となり、ほぼ横ばいとなった。また、製造業は、エネルギー価格の高騰によるコスト増で悪化し、卸売業も、国内需要回復の鈍さから引き合いが減少し、悪化した。

・物価高で内需に力強さを欠く中、原材料・エネルギー価格のさらなる高騰でコスト増が続いている。また、深刻な人手不足に加え、労務費等の上昇分までの十分な価格転嫁も行えておらず、中小企業の業況は横ばいに留まっている。

●先行き見通しDIは、▲14.0

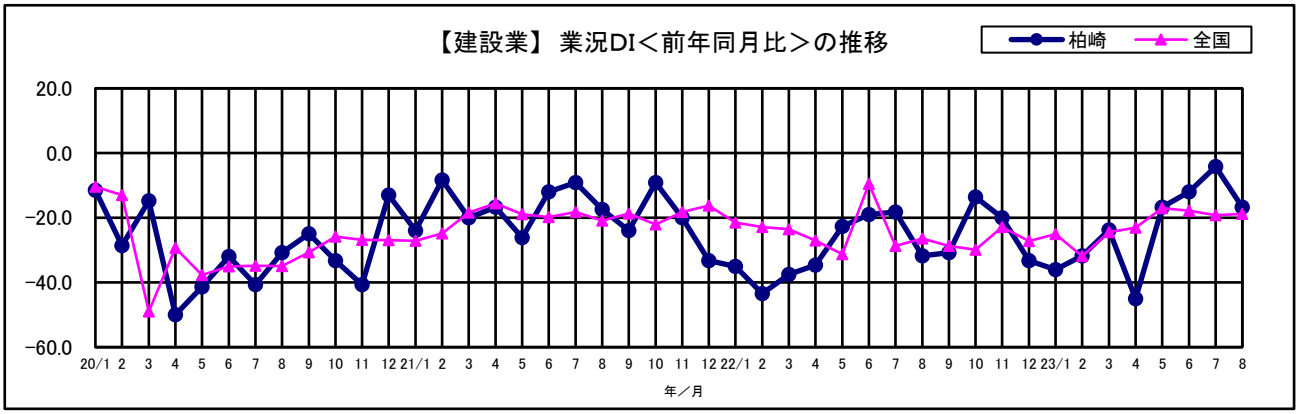
・秋の行楽シーズンでの個人消費の拡大や、インバウンド需要のさらなる回復への期待感がうかがえる。一方で、電気代やガソリン代等の高騰によるコスト負担増や、深刻な人手不足に一段と苦慮する声が業種を問わず聞かれている。コスト増に見合う十分な価格転嫁が行えておらず、生産性向上や人材確保等の諸課題解決に向けた原資の確保も難しい中、地政学リスクも高まっており、厳しい状況が続く。

【8月期柏崎全産業の動向】

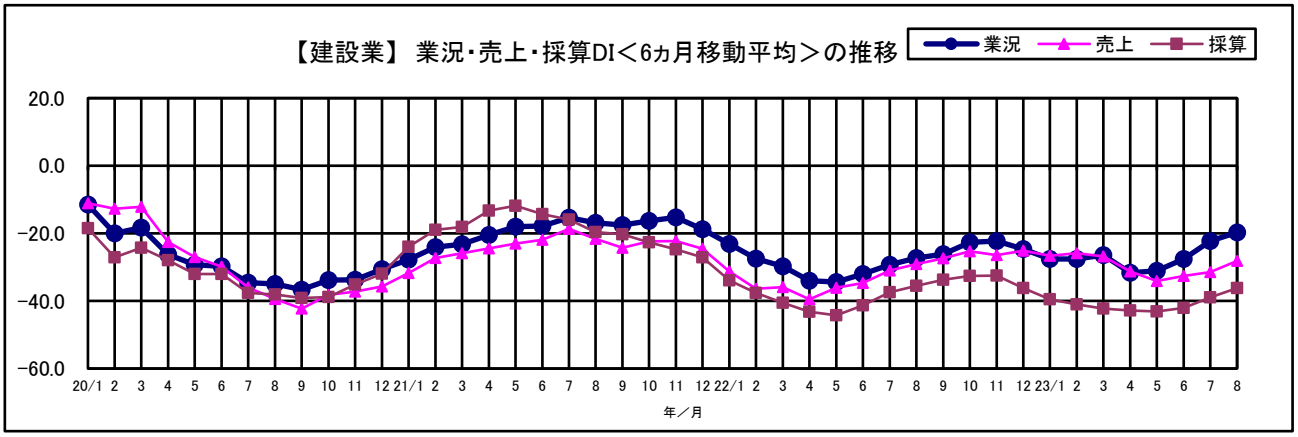
今夏の記録的な猛暑の影響や原材料・エネルギー価格の高騰により業況DIをはじめ、全体的にDI値の悪化が見られたが、総じてトレンド、方向性を示す移動平均分析で見ると、緩やかな回復傾向にあることが見て取れる。暑さの落ち着いた今後の行楽シーズンでの消費の拡大に期待。

【建設業】

項　目		23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	23年8月	先行き見通し 9月～11月
業　況	柏　崎	▲ 23.8	▲ 45.0	▲ 16.7	▲ 12.0	▲ 4.2	▲ 16.7	▲ 20.8
	全　国	▲ 24.5	▲ 23.1	▲ 17.0	▲ 17.8	▲ 19.2	▲ 18.8	▲ 15.3
売　上	柏　崎	▲ 28.6	▲ 45.0	▲ 33.3	▲ 16.0	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 20.8
	全　国	▲ 11.9	▲ 13.8	▲ 13.6	▲ 15.6	▲ 14.4	▲ 7.0	▲ 7.3
採　算	柏　崎	▲ 38.1	▲ 35.0	▲ 37.5	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 25.0
	全　国	▲ 26.6	▲ 25.8	▲ 26.0	▲ 22.2	▲ 26.6	▲ 21.3	▲ 18.8
資金繰り	柏　崎	▲ 9.5	▲ 10.0	▲ 12.5	▲ 12.0	▲ 4.2	▲ 12.5	▲ 12.5
	全　国	▲ 12.8	▲ 10.5	▲ 8.0	▲ 8.8	▲ 6.7	▲ 7.6	▲ 7.6
仕入単価	柏　崎	▲ 81.0	▲ 70.0	▲ 66.7	▲ 60.0	▲ 58.3	▲ 62.5	▲ 54.2
	全　国	▲ 84.4	▲ 83.1	▲ 76.8	▲ 74.1	▲ 75.0	▲ 74.8	▲ 66.9
従業員	柏　崎	19.0	15.0	33.3	32.0	37.5	41.7	45.8
	全　国							34.4
資金借入難易感	柏　崎	▲ 4.8	15.0	▲ 4.2	0.0	▲ 4.2	▲ 8.3	▲ 8.3



＜移動平均分析（建設業）＞



【全国建設業の動向】

国からの公共工事を中心に受注が堅調に推移する一方、建設資材・エネルギー価格の高騰や、コスト増に見合う価格転嫁も十分に追いつかず、ほぼ横ばい。事業者からは猛暑で作業を中断したため、人件費が増加したとの声も聞かれた。

＜日本商工会議所に寄せられた声＞
・「公共工事を中心に手元工事の件数は増加している。一方で、連日の猛暑による従業員の熱中症予防のため、作業を中断せざるを得ない時間が多くなっており、工期の延長から人件費が増加し、収益を圧迫している。工期の見える化による平準化を図っていく」（一般工事業）
・「受注数が増え始めており、業況は上向きになってきたものの、材料の仕入れ等の先行支出が多く、資金繰りが課題となっている」（リフォーム工事業）

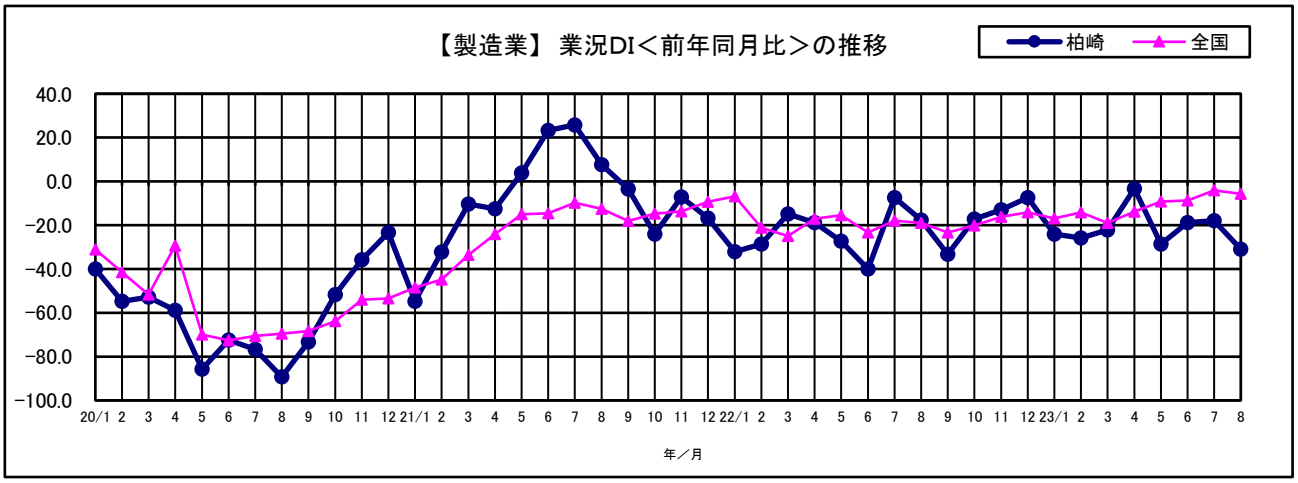
【柏崎建設業の動向】

マイナス域ながらここ数か月、回復傾向にあった業況DIで資金繰りの悪化に伴い、マイナス幅の拡大が見られた。しかし、採算DIは先月から横ばいであり、先行き見通しではマイナス幅の縮小が見込まれる。小売業と並び、人手不足感が強い。

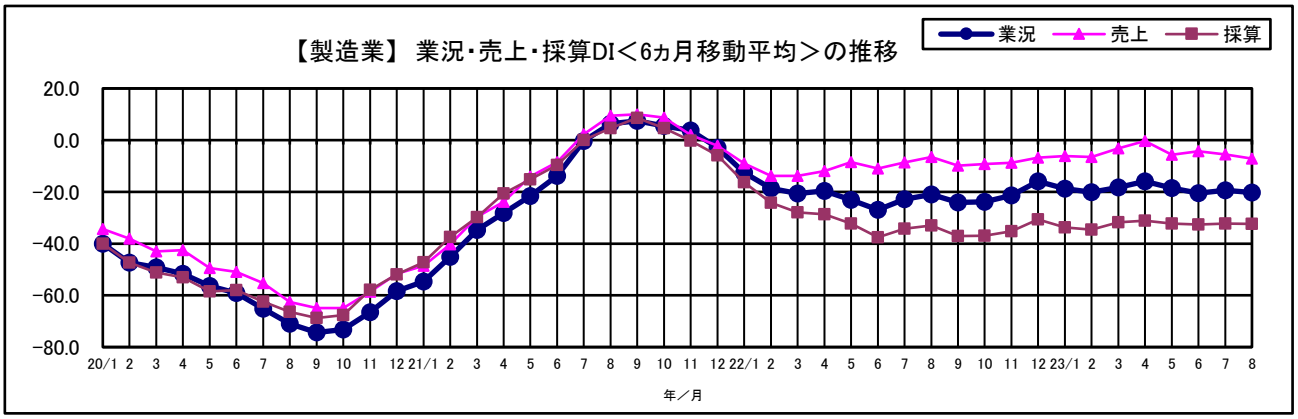
＜柏崎商工会議所に寄せられた声＞
・とにかく人手不足
・賃上げによる採算悪化の懸念

【製造業】

項　目		23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	23年8月	先行き見通し 9月～11月
業　況	柏　崎	▲ 22.2	▲ 3.3	▲ 28.6	▲ 18.8	▲ 17.9	▲ 31.0	▲ 27.6
	全　国	▲ 18.9	▲ 13.9	▲ 9.2	▲ 8.8	▲ 4.1	▲ 5.6	▲ 14.6
売　上	柏　崎	0.0	16.7	▲ 28.6	▲ 3.1	▲ 7.1	▲ 20.7	▲ 13.8
	全　国	1.2	8.4	9.9	13.3	9.2	9.4	0.0
採　算	柏　崎	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 35.7	▲ 28.1	▲ 39.3	▲ 37.9	▲ 24.1
	全　国	▲ 25.5	▲ 21.2	▲ 14.2	▲ 14.0	▲ 12.1	▲ 12.0	▲ 14.0
資金繰り	柏　崎	▲ 7.4	▲ 10.0	▲ 14.3	▲ 3.1	▲ 7.1	▲ 13.8	▲ 3.4
	全　国	▲ 17.1	▲ 11.8	▲ 13.1	▲ 13.3	▲ 13.6	▲ 12.6	▲ 16.0
仕入単価	柏　崎	▲ 81.5	▲ 76.7	▲ 71.4	▲ 65.6	▲ 67.9	▲ 79.3	▲ 51.7
	全　国	▲ 78.7	▲ 76.5	▲ 73.3	▲ 69.6	▲ 68.4	▲ 67.6	▲ 55.2
従業員	柏　崎	11.1	23.3	10.7	12.5	17.9	10.3	10.3
	全　国							14.6
資金借入難易感	柏　崎	7.4	10.0	3.6	3.1	3.6	3.4	6.9



＜移動平均分析（製造業）＞



【全国製造業の動向】

電気・ガソリン等のエネルギー価格や円安による輸入部材の高騰に伴うコスト負担増に加え、国内の設備投資に弱さが見られたほか、海外経済の停滞による電子部品関連の需要減が継続し、悪化。

＜日本商工会議所に寄せられた声＞

・「経済活動の回復に伴い、売上は少しづつ戻ってきているものの、電気代等のコスト増が上回っており、利益を確保できていない。省エネ化に向けて設備の入れ替え等を検討しているが、手元資金が十分でないため、足踏みしてしまう」（金属加工機械製造業）

・「中国を始めとする海外からの受注が伸び悩んでいる。輸出を行っている国内の取引先も同様のため、総じて売上は減少している」（無機化学製品製造業）

【柏崎製造業の動向】

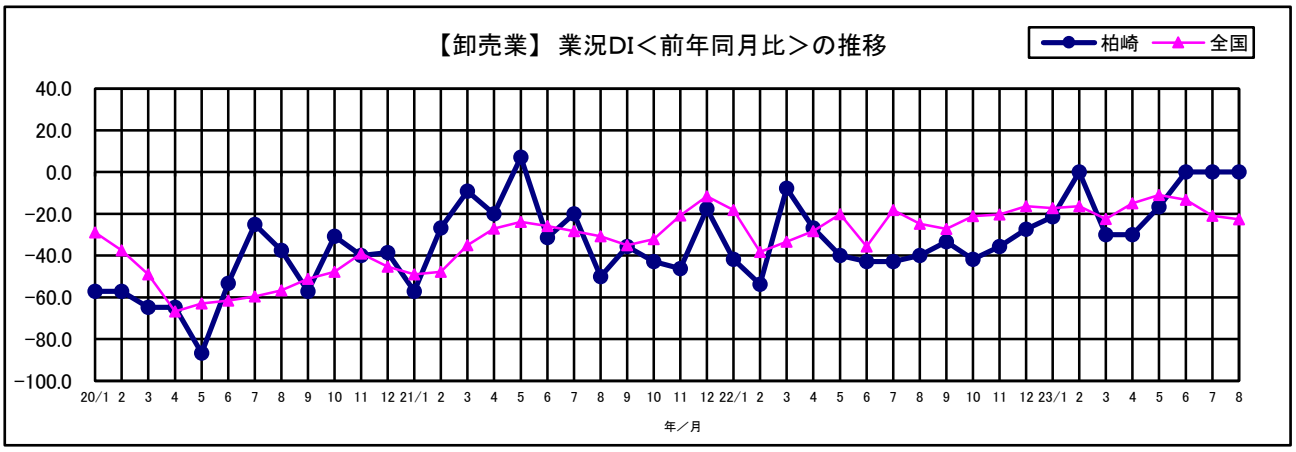
業況DIは▲31.0でマイナス幅の拡大が見られた。仕入単価DIもマイナス幅の拡大となったが、先行き見通しの仕入単価DIでは僅かながらマイナス幅の縮小が見られた。先行き見通しのDI値は各指標で8月期のDI値より回復すると見込まれている。

＜柏崎商工会議所に寄せられた声＞

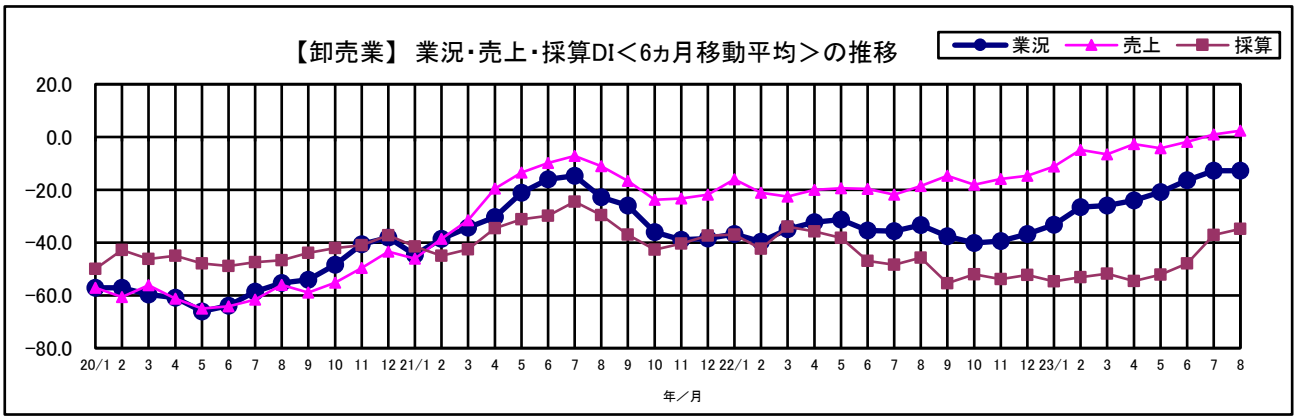
・売上は前年同期（8月）比で▲8%。自動車関連は回復の兆しが見えない。自動車関連以外も下期にかけて悪化してくる情報。一方で舶用関連の部品は少しづつ伸びてくる見込み。

【卸売業】

項　目		23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	23年8月	先行き見通し 9月～11月
業　況	柏　崎	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 16.7	0.0	0.0	0.0	▲ 30.0
	全　国	▲ 22.4	▲ 15.0	▲ 11.0	▲ 13.2	▲ 20.9	▲ 22.6	▲ 23.0
売　上	柏　崎	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 16.7	14.3	16.7	20.0	▲ 10.0
	全　国	0.0	4.2	5.5	1.6	0.0	▲ 0.9	▲ 4.3
採　算	柏　崎	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 28.6	0.0	▲ 30.0	▲ 50.0
	全　国	▲ 20.3	▲ 16.7	▲ 13.1	▲ 14.8	▲ 17.0	▲ 17.4	▲ 16.2
資金繰り	柏　崎	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 16.7	▲ 7.1	0.0	▲ 10.0	▲ 20.0
	全　国	▲ 15.2	▲ 10.4	▲ 11.4	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 11.5	▲ 13.6
仕入単価	柏　崎	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 66.7	▲ 71.4	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 40.0
	全　国	▲ 73.0	▲ 64.6	▲ 67.1	▲ 67.1	▲ 57.4	▲ 59.6	▲ 54.0
従業員	柏　崎	20.0	40.0	25.0	7.1	25.0	20.0	10.0
	全　国							14.5
資金借入難易感	柏　崎	0.0	0.0	0.0	▲ 14.3	8.3	10.0	0.0



＜移動平均分析（卸売業）＞



【全国卸売業の動向】

ガソリン代の高騰による輸送費等のコスト負担が増加する中、物価高による買い控えや猛暑等の天候不順で販売数・客足ともに伸び悩んだ小売業・サービス業からの引き合い減少に加え、台風等の影響による物流の停滞も重なり、悪化。

＜日本商工会議所に寄せられた声＞
「台風の影響で取引先への配送が行えず、売上が減少した。加えて、連日の猛暑や天候不順の影響で生鮮品の育成状況も芳しくなく、取扱数量の減少によるさらなる売上減少が危惧される」（農畜産水産物卸売業）
・「物価上昇の影響で、消費者の生活必需品以外の買い控えが継続しており、取引先からの引き合いの減少が続いてる」（衣服・日用品卸売業）

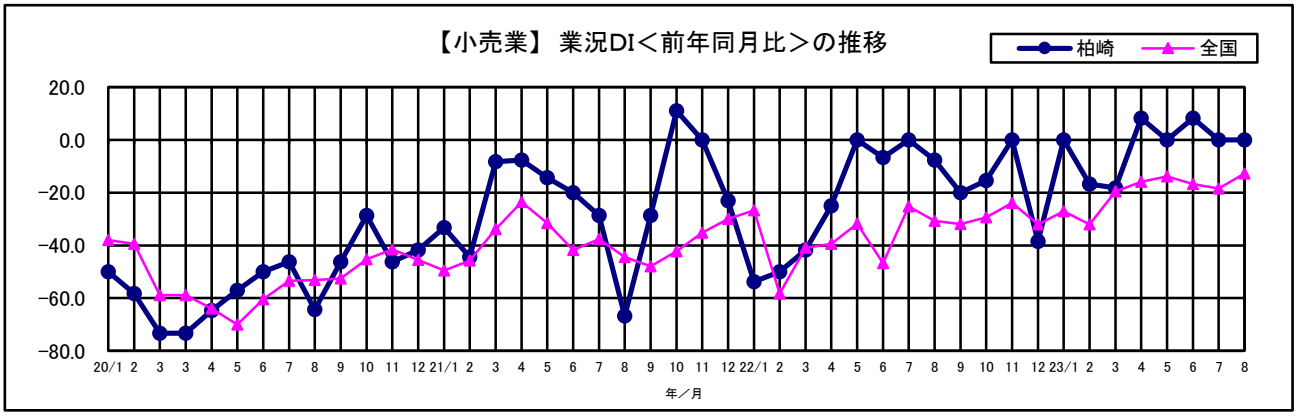
【柏崎卸売業の動向】

業況DIは0.0と前月に引き続き横ばい。売上DIはプラス幅の拡大が見られた。しかし、採算DIは▲30.0、と前月期から30ポイントのマイナスが見られ、建材・鉱物等の材料単価の上昇の影響があるように感じる。

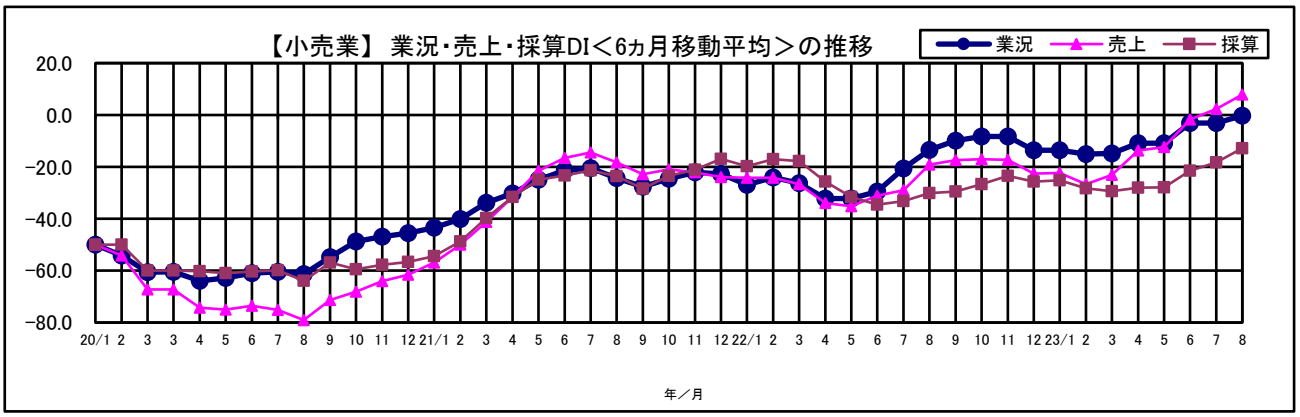
＜柏崎商工会議所に寄せられた声＞
・お盆期間は稼働日数少ない為、昨年と同様であればOK。

【小売業】

項　目		23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	23年8月	先行き見通し 9月～11月
業　況	柏　崎	▲ 18.2	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0
	全　国	▲ 19.5	▲ 15.9	▲ 13.8	▲ 16.7	▲ 18.5	▲ 12.7	▲ 18.6
売　上	柏　崎	▲ 18.2	25.0	0.0	25.0	15.4	0.0	0.0
	全　国	▲ 6.8	2.2	▲ 3.8	▲ 4.9	▲ 1.7	4.7	▲ 7.1
採　算	柏　崎	▲ 36.4	0.0	▲ 15.4	▲ 8.3	▲ 7.7	▲ 9.1	▲ 18.2
	全　国	▲ 23.4	▲ 18.8	▲ 16.4	▲ 17.6	▲ 17.0	▲ 15.4	▲ 20.8
資金繰り	柏　崎	▲ 18.2	0.0	▲ 7.7	▲ 16.7	▲ 15.4	▲ 18.2	▲ 27.3
	全　国	▲ 19.7	▲ 19.0	▲ 14.3	▲ 18.4	▲ 18.5	▲ 16.9	▲ 17.6
仕入単価	柏　崎	▲ 54.5	▲ 58.3	▲ 61.5	▲ 41.7	▲ 61.5	▲ 54.5	▲ 54.5
	全　国	▲ 74.2	▲ 77.6	▲ 68.4	▲ 71.3	▲ 69.7	▲ 74.5	▲ 69.6
従業員	柏　崎	18.2	50.0	30.8	33.3	38.5	54.5	45.5
	全　国							16.7
資金借入難易感	柏　崎	▲ 18.2	▲ 8.3	▲ 7.7	0.0	▲ 15.4	▲ 18.2	▲ 18.2



＜移動平均分析（小売業）＞



【全国小売業の動向】

物価高による日用品等の買い控えに加え、電気代等のエネルギー価格の高騰は継続しているものの、インバウンド需要の回復や夏休み需要による国内旅行客の増加に伴い、売上が好調だった百貨店が全体を牽引し、改善。

＜日本商工会議所に寄せられた声＞
・「仕入価格の高騰に伴い、価格転嫁を実施。夏休みの旅行需要の恩恵もあり、売上は増加している。一方で、連日の猛暑で空調使用量が増加しており、電気代高騰による負担が大きくなっている。店内の省エネ化に取り組んでいるものの、追いつかないほど負担となっている」（百貨店）
・「物価上昇により、消費者が生活必需品以外の支出を抑えており、来客数・客単価ともに激減している」（家具小売業）

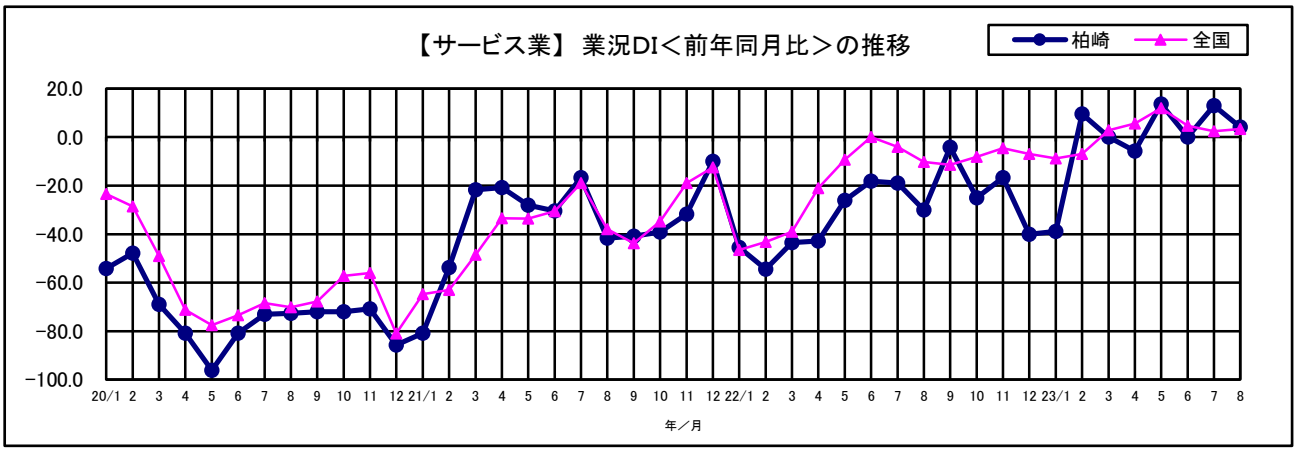
【柏崎小売業の動向】

業況DIは0.0と前月に引き続き横ばい。総じてトレンド、方向性を示す移動平均分析は回復傾向にあることが分かる。しかし、食品小売は仕入単価で「上昇」の回答が多く、売上や採算に影響している。

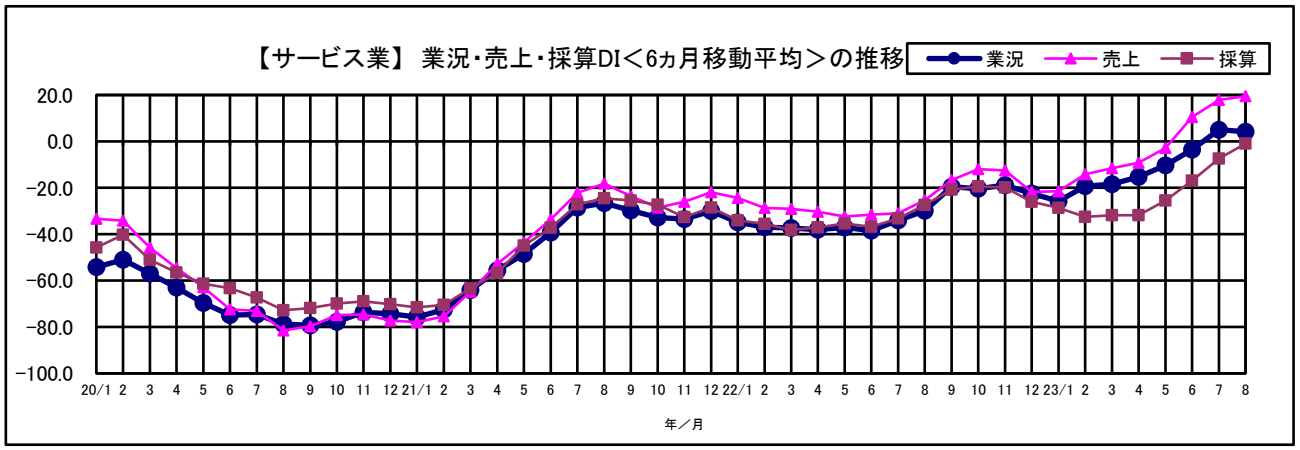
＜柏崎商工会議所に寄せられた声＞
・猛暑により客足が減少。
・一方でお盆期間は帰省増加により客数が増加。
・受注案件の内容の変化（数百個単位→数千・数万個単位）

【サービス業】

項　目		23年3月	23年4月	23年5月	23年6月	23年7月	23年8月	先行き見通し 9月～11月
業　況	柏　崎	0.0	8.3	13.6	0.0	13.0	4.2	▲ 4.2
	全　国	2.8	5.6	11.9	4.7	2.4	3.4	▲ 4.5
売　上	柏　崎	23.8	8.3	13.6	25.0	21.7	29.2	0.0
	全　国	▲ 19.4	21.5	21.6	15.0	16.4	20.2	6.7
採　算	柏　崎	▲ 4.8	0.0	9.1	▲ 4.2	13.0	▲ 4.2	▲ 12.5
	全　国	▲ 8.1	▲ 1.4	1.9	▲ 6.1	▲ 5.3	▲ 3.8	▲ 12.1
資金繰り	柏　崎	▲ 4.8	▲ 4.2	4.5	0.0	8.7	▲ 4.2	▲ 8.3
	全　国	▲ 11.0	▲ 11.8	▲ 6.4	▲ 10.0	▲ 8.7	▲ 8.7	▲ 12.6
仕入単価	柏　崎	▲ 66.7	▲ 62.5	▲ 68.2	▲ 70.8	▲ 64.0	▲ 79.2	▲ 70.8
	全　国	▲ 67.4	▲ 68.7	▲ 66.5	▲ 66.0	▲ 63.2	▲ 68.8	▲ 64.0
従業員	柏　崎	14.3	4.2	18.2	12.5	25.0	16.7	12.5
	全　国							32.6
資金借入難易感	柏　崎	0.0	▲ 4.2	4.5	4.2	0.0	▲ 4.2	▲ 4.2



＜移動平均分析（サービス業）＞



【全国サービス業の動向】

夏休み需要で飲食・宿泊・観光業を中心に売上が回復基調にあるものの、電気代等のエネルギー価格の上昇に加え、連日の猛暑や繁忙期に台風等の天候不順が重なった影響もあり、小幅改善に留まる。

＜日本商工会議所に寄せられた声＞

・「5類移行後、初めての夏休みで予約も増加していたが、台風によるキャンセルが発生し、想定よりも売上は伸び悩む結果となった。繁忙期の売上減少は今後の経営に大きな影響を与えるため、エネルギー価格の上昇や人件費などのコスト増への対応が厳しい」（飲食店）

・「販路開拓を行い、学生団体等の新規顧客の獲得に成功。一方で、人手不足はより深刻な状況となっている」（宿泊業）

【柏崎サービス業の動向】

業況DIはプラス域を維持しているが、前月からプラス幅の縮小が見られた。売上DIではプラス幅の拡大が見られたが、電気代等のエネルギー価格の高騰などの要因から採算DIはプラス域からマイナス域へ落ちた。